

指導事例集

国語科

国語科の研究の概要	7
指導事例 1 春日野の姉妹（伊勢物語）	8
指導事例 2 宮に初めて参りたるころ（枕草子）	16
指導事例 3 古典の世界について調べて発表しよう	27
研究を通しての成果と課題	37

国語科の研究の概要

従前の学習指導要領では、「A表現」、「B理解」及び〔言語事項〕の2領域1事項で内容を構成していたが、新学習指導要領では、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔言語事項〕の3領域1事項に構成が改められた。また、各科目及び領域ごとに言語活動例が示され、言語の教育としての国語科の立場を一層重視した内容になっている。

本研究は「古典」と「古典講読」での実践である。いずれも従前の学習指導要領下での学年を対象とした実践であるが、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導を展開した。新学習指導要領によると、前者は「系統的」な教材、後者は「まとまりのある」教材を扱うという点で若干の違いはあるが、いずれも「C読むこと」を重点的に扱う科目であり、「各領域の言語活動を通して」、「古典に親しむ態度を育成する」という点で、共通の目標を持っている。新学習指導要領の「内容の取扱い」にも、「話すこと・聞くこと及び書くことの言語活動を効果的に取り入れるようにする」とある。これを受けて、各事例においては、古典に親しむ態度を育成するために言語活動を取り入れて、指導と評価の工夫に取り組んだ。

また、本研究では、国立教育政策研究所教育課程研究センターから示された、観点別学習状況の評価の観点である、国語科の5観点（「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解」）を参考にして、内容のまとまりごとの評価規準を設定し、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の実践を試みた。指導事例は「古典」「古典講読」に関する実践であるので、「関心・意欲・態度」、「読む能力」、「知識・理解」の3観点を取り上げた。言語活動として取り上げた、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に関しては、「国語総合」、「国語表現」、「国語表現」、「現代文」の領域において、独立した単元教材で重点的に指導してその能力を育てるものであるとの立場に立って、ここでは評価の対象としていない。

各事例で扱った単元は次のとおりである。

指導事例1 春日野の姉妹（伊勢物語）

指導事例2 宮に初めて参りたるころ（枕草子）

指導事例3 古典の世界について調べて発表しよう

< 研究協力員 >

栃木県立藤岡高等学校 教諭 霧林 宏道

栃木県立黒羽高等学校 教諭 小林 紀子

栃木県立喜連川高等学校 教諭 上田 晃

< 研究委員 >

栃木県総合教育センター 研究調査部 指導主事 吉澤 正光